

重大な事故防止に向けた安全対策

【 34 ライフル射撃 】

1 競技特性

1. エアライフル

実弾を使い、的を狙う競技である。公安委員会より、銃砲所持許可を受けた者のみがエアライフルを扱える。得点の対象となる本射時間は最長で1時間30分であり、試射時間15分、準備時間15分を加えると合計2時間にも及ぶ長い競技時間となる。また、射撃中の揺れを抑えるため、射撃コートという装具を競技時間中身に付け続ける。射撃コートは硬いキャンパス生地できており、通気性・放熱性に欠ける。競技は各都道府県の公安委員会が許可した射撃場にて行う。原則として許可を受けた競技者のみが該当のエアライフルに触れることができる。

2. ビームライフル

光線銃を使い、的を狙う競技である。得点の対象となる本射時間は最長で45分であり、試射時間15分、準備時間15分を加えると合計1時間15分の競技時間となる。光線銃(光が出るだけ)のため、公安委員会による許可が不要である以外はエアライフルと基本的には同じ競技特性である。

3. ビームピストル

光線拳銃を使い、的を狙う競技である。基本的にはビームライフルと同じ競技特性を持つ。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 暴発(過去、エアライフルの暴発による事故はなし) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 射座で空撃ちまたは射撃を認められているとき以外は、すべてのライフル、ピストルには常にセフティフラッグを挿入する。 ・ 射座において銃器は常に安全な方向に向ける。機関部やブリーチは銃器が標的エリアの安全な方向に向けられるまで閉じない。 ・ 銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了したときには、銃の機関部(ボルトまたは閉鎖機構)を開放して抜弾し、セフティフラッグを挿入する。射座を離れる前に選手はそれを確認し、また射場役員は銃の薬室、銃身または弾倉内に残弾のないこととセフティフラッグが挿入されていることを確認する。 ・ 競技中、銃器を手から離して置くときは、抜弾し、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けたままにしておく。 ・ 射撃線の前方に作業員がいるときは銃器を取り扱わない。またセフティフラッグを必ず挿入する。 ・ 射座以外の射場内では、射場役員の指示による場合を除き、銃器は銃ケースに入れておく。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 暑熱環境での長時間の練習等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱中症 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱中症の兆候を自覚した場合、射撃を中断するよう、選手に熱中症への配慮を徹底させる。顧問・選手補助員は、射場に保冷剤など体を冷やせるものを常に用意し、選手が体調不良を訴えた際にいつでも体温を下げられるように準備をしておく。 また、競技中は選手補助員を選手1人につき1名以上射座後方に待機させ、選手の健康状態の観察を行う。問題がある場合には、射場役員や顧問に連絡を行う。

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 暴発や、跳弾に巻き込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱水症状 ・ 外傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選手に水分補給を徹底させる。顧問は飲み物を持たずに試合に臨むことを許可しない。 また、競技中は選手補助員を選手1人につき1名以上射座後方に待機させ、選手の健康状態の観察を行う。問題がある場合には、射場役員や顧問に連絡を行う。 ・ 選手であっても、射場役員の許可なく射座に入ってはならない。また、勝手に射座から出ない。競技中断中であっても射場役員の許可なく射線より前に出ない。これらを徹底させる。 その他、銃器の扱いに不安を覚える者を発見した場合には、射場役員・顧問にその旨を申し出るよう徹底する。

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱中症 ・ Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱射病、熱けいれん等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ WBGTが高いときや気温が急激に上がって暑さに慣れていないときは、練習時間を短くし休憩をこまめにする。 ・ 疲労が見られる者は練習を中止し、休憩、水分補給し体を冷やす。 ・ 異常が見られたときは練習を中止して体を冷やし、回復が見られないときは救急車を呼び受診させる。 ・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

ライフル射撃競技ルールブック

安全確認チェックリスト

【 34 ライフル射撃 】

競技会名	
期 日	平成 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設・設備・用具	射座で空撃ちまたは射撃を認められているとき以外は、すべてのライフル、ピストルにセフティフラッグが挿入されているか。	
	射座において銃器は常に安全な方向に向けられているか。	
	機関部やブリーチは銃器が標的エリアの安全な方向に向けられるまで閉じられていないか。	
	銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了したとき、銃の機関部（ボルトまたは閉鎖機構）を開放して抜弾し、セフティフラッグが挿入されているか。	
	競技中、銃器を手から離して置くとき、抜弾し、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けたままにされているか。	
	射撃線の前方に作業員がいるときは銃器を取り扱っていないか。またセフティフラッグは必ず挿入されているか。	
	射座以外の射場内で、射場役員の指示による場合を除き、銃器は銃ケースにしまわれているか。	
活動内容	熱中症の兆候を自覚した場合、射撃を中断し申し出るよう、選手に指示をしたか。	
	射場に保冷剤など、すぐに体を冷やせるものを準備しているか。	
	競技中、選手補助員を選手1名につき1名以上射座後方に待機させているか。	
	選手の健康状態・安全状態に問題がある場合に顧問・競技役員に連絡を行うよう、選手補助員に指示をしたか。	
	選手は水分補給のための飲み物を準備しているか。	
環境条件等	競技中、無断で射座に入る者がいないか。	
	競技中断中であっても、射座より前に出る者がいないか。	
	銃器の扱いに不得手そうな者はいないか。	
発令時対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか。	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか。	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)